**ユリ**

**Easter lily / *Lilium longiflorum* / Teppo-yuri / テッポウユリ**
代表的なテッポウユリは、明治時代(1868-1912)海外に輸出されるまでは、日本南部の島の固有種であった。奄美大島では高さ1mほどに育ち、岩場や草地、海岸沿いの岩礁、住宅地などにも育つ。晩春から初夏にかけて、10～15cmのラッパ型の純白の花を横向きにつける。花は世界中で切り花として使われており、ギリシャやローマ神話、キリスト教の聖書にも似たユリが記載されている。和名のテッポウユリは花の形が16世紀の銃器の大きく広がる銃身からが由来である。

**Dwarf lilyturf / *Ophiopogon jaburan* / Noshiran / ノシラン**
ユリの一種であるノシランは、森の道沿いの湿った日陰地によくみられる。長さ50cmほどの草状の光沢のある緑の葉が束のように生え、茎や葉平たく、垂れ下がっている。開花は夏で、白い小花をまばらに咲かせ、幹から下向きに咲く。花の後には淡い緑色の実がなり、冬にかけて鮮やかな青か紫色に熟す。ノシランは日本庭園の下草として使われることも多い。